

護を利用している。入院中に医師より、油ものや肉類やお酒の摂取方法について指導を受けたので守っているとのことであったが、食欲不振があり体重低下が見られた。

BMI22.1、血清アルブミン値 3.6g/dl であったが、調査前月の血清アルブミン値は 3.5g/dl、体重減少 6 ヶ月に 3%であったため、管理栄養士による栄養改善サービスを導入し、体重減少を改善し、栄養状態の向上、食事摂取量の増加を図ることとした。

本人の希望は「今まで通り、デイに通いながら家族と一緒に楽しく在宅で暮らしたい」であったので、摂取栄養量増量のための支援として栄養食事相談、身体状況把握のため体重、身長の定期的な測定、さらには下肢筋力向上のため運動機能訓練の実施等を栄養改善サービス計画に取り入れた。

管理栄養士は、介護支援専門員と随時連絡調整を行い、栄養相談においては調理担当者である同居中の娘さんにも加わってもらい計画を実行した。

「食事制限をしなくてはならない」から「十分に食べることに」意識を変えることに特に留意し、胃切除後ではあるが少しでもたくさん食べられるよう、嗜好や食生活歴を重視して栄養相談を実施した。その結果、体重減少は食い止められ、間食を摂るなどの積極的な工夫がみられ 3 ヶ月後には血清アルブミン値 4.3g/dl まで改善がみられた。栄養状態がよくなったことを伝えると大変喜ばれ、運動機能訓練なども積極的に行なわれるようになった。

4. 事例からの多職種協働等の課題

これまでの私たち管理栄養士の業務は、施設や病院に入所中の高齢者を対象とした栄養管理が中心であり、喫食量や嗜好などの把握が行いやすかったが、本研究では対象者の生活全般の見えない部分が多く、情報収集に時間がかかった。また、これまで管理栄養士が利用者との接点がほとんどなかったことから信頼関係を築くことにも時間がかかり、栄養改善サービスの必要性の説明や同意を得る部分についても介護支援専門員の協力なくしては効率よく進まなかったと考える。

管理栄養士は、利用者が安心して楽しく栄養改善サービスを受けていただけるよう、介護支援専門員や通所デイのスタッフとの連携を深め情報の共有化を図り、単にこれまでの栄養指導の延長に留まることなく、栄養改善が介護予防さらには自己実現につながるよう、その技術を高める必要があると感じた。

5. 栄養改善サービスの取り組み方

これまでも当院では、通所デイ利用者の栄養状態を把握し、病院での治療等行ってきたが、管理栄養士が栄養改善のための取り組みをするには至っていなかった。

本研究の結果をもとに、当院では通所デイ利用者に対する低栄養リスク別の栄養改善プログラムを作成した。これは定期的に身体計測や血液検査を行うことで栄養状態を把握し、食べること選ぶことを楽しんでもらえるような調理実習の実施、配食サービスの検討、補充食品のリスト作成などを取り入れている。このプログラムに沿って個別な栄養改善計画

を作成し、モニタリングを行うこととした。

さまざまな事例を見てみると、入院入所中の高齢者に比べ、介護度の軽度な高齢者は少し意識を変えるだけで体重増加に繋がったり、血液検査の改善に繋がる事例が多いと考えられた。今後も「食べること」を通じて、高齢者が自立した日常生活を営むことが出来るよう支援を行っていきたい。

厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)

介護予防のための低栄養状態スクリーニング・システムに関する研究

主任研究者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 教授 杉山みち子

分担研究者 名古屋大学医学系研究科ヤングリーダーズプログラム 助教授 西村 秋生

聖マリアンナ医科大学予防医学教室 教授 吉田 勝美

神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科 教授 太田 貞司

神奈川県立保健福祉大学看護学科 教授 別所 遊子

神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科学科長 岡本 連三

神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科理学療法学専攻 教授

長澤 弘

神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科作業療法学専攻 専攻長

清水 順市

神奈川県立保健福祉大学人間総合・専門基礎担当 助教授 渡部 鎌二

神奈川県立保健福祉大学人間総合・専門基礎担当 講師 櫻井 典子

協力研究者 日本介護支援専門員協会 会長 木村 隆次

日本介護支援専門員協会 常任理事 山田 圭子

研究事務局 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 五味 郁子

宮本 啓子

原口 洋子

天野 由紀

事務局補助 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 大矢 未帆子

鈴木 美和子

遠又 靖丈

中野 もも

三宅 順子

渡辺 陽子

地域支援事業特定高齢者施策栄養改善プログラム協力地域

茨城県筑西市 筑西市明野保健センター、筑西市明野支所福祉課、茨城県筑西保健所健康増進課

岡山県建部町 岡山県建部町役場 保健センター、岡山県保健福祉部健康対策課、建部町保健福祉課、建部町保健センター、組合立国保福渡病院、建部町民生委員会、建部町栄養委員会、建部町在宅介護支援センター、建部町社会福祉協議会

神奈川県津久井町 神奈川県津久井郡津久井町役場、神奈川県津久井保健福祉事務所

神奈川県秦野市 神奈川県秦野保健福祉事務所、秦野市、秦野市医師会、秦野市社会福祉

協議会、秦野在宅介護支援センター、寿湘が丘老人ホーム在宅介護支援センター、菖蒲荘在宅介護支援センター、湘南老人ホーム在宅介護支援センター、ライフプラザ鶴巻在宅介護支援センター

神奈川県横須賀市 神奈川県横須賀市（健康福祉部 保健所 健康づくり課、健康福祉部 長寿社会課、市民部 逸見行政センター）、横須賀市社会福祉協議会、逸見地区老人会

高知県室戸市 室戸市役所 保健介護課、生きがい対応型サービススタッフ、室戸市内医療機関、社会福祉協議会、室戸市在宅介護支援センター いさな、室戸市在宅介護支援センター つどい、室戸市在宅介護支援センター むろと、室戸市立市民館、室戸市立公民館

福井県あわら市 福井県あわら市健康長寿課、あわら市医師会、あわら市社会福祉協議会、金津雲雀ヶ丘寮在宅介護支援センター、坂井郡介護保険広域連合、福井県栄養士会

通所サービスでの栄養改善サービス—新予防給付—協力施設

(医) 真正会 霞ヶ関南病院 通所リハ デイホスピタル
社会福祉法人 翠耀会 介護老人福祉施設グリーンヒル
(医) 敬歯会 介護老人保健施設 けいあいの郷 今宿、NPO たちばな
医療法人仁恵会 介護老人保健施設 相模大野
社会福祉法人三育福祉会 介護老人福祉施設 シャローム
医療財団法人倉田会 しんど老人保健施設
社会福祉法人 ユーアイ二十一 特別養護老人ホーム 太陽の家
医療法人社団横浜育明会 介護老人保健施設 都筑シニアセンター
(福) 麗寿会 介護老人福祉施設 ふれあいの森
医療法人 平成博愛会 博愛記念病院、平成在宅介護支援センター
社会福祉法人 公友会 介護老人福祉施設 横須賀グリーンヒル

平成 18 年 3 月発行

本事例研究集は、平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)介護予防のための低栄養状態スクリーニング・システムに関する研究により作成されたものであり、長寿科学研究推進事業:長寿科学総合研究事業による発表会 介護予防のための低栄養状態スクリーニングに関する研究報告～「食べること」をとおして「活動的な 85 歳になるために」～(平成 18 年 3 月 11 日、神奈川県立保健福祉大学において開催)の教材として使用されたものである。当該発表会の終了後、全国の管理栄養士及び介護支援専門員の方々から、研修教材として緊急に配布できるようにという多数の要望があり、事例の追加などを行い、当該発表会の協賛団体である日本健康・栄養システム学会に製本及び実費販売をお願いしたものである(主任研究者 杉山みち子記)。

地域支援事業特定高齢者施策及び新予防給付「栄養改善」事例研究集

－介護予防ケアマネジメントから栄養改善サービスへ－

有限責任中間法人 日本健康・栄養システム学会 事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座 1-5-15 ドゥーミラン銀座ビル 5 階

TEL.03-5159-0365 FAX.03-5159-0366

神奈川県立保健福祉大学 栄養学科内 杉山みち子 五味郁子

〒238-8522 神奈川県横須賀市平成町 1-10-1

TEL. 046-828-2662 FAX 046-828-2663

製 作 西片企画

実費販売

(複写を禁ずる)

E-Mail ncm@j-ncm.com

URL <http://www.j-ncm.com/>